

緊急集会

原発事故とこれからの市民社会

6月18日 午後2時半より

龍谷大学瀬田キャンパス 8号館102号室

入場無料、一般来聴歓迎

講演者

伊藤公雄（京大文学部）、河野益近（京大工学部）、高橋幸子（作家）、
池島芙紀子（「ストップ・ザ・もんじゅ」代表）、杉村昌昭（龍大名誉教授）、
田中滋（龍大社会学部）、清水耕介（龍大国際文化科学部） 予定

3月11日の東日本大震災における福島県原発事故は、私たちの想像を大きく超える規模の放射能汚染を引き起こし、いまなお収束する気配をみせていません。政府や電力会社、大手マスコミ、大学の学者たちはあいかわらず「安全」「安心」という言葉を繰り返していますが、市民団体やフリージャーナリストたちによって隠蔽された事実が次々と暴かれ、産官学の癒着構造が明らかにされていくにつれて、産・官・学の癒着とマスメディアにたいする国民の不信感は、かつてないまでに高まっています。戦争と「ヒロシマ」「ナガサキ」の反省のうえに成り立った戦後日本社会は、放射能汚染の悲劇をどうして繰り返してしまったのでしょうか？なぜ止めることができなかったのでしょうか？

石油や原子力などの膨大なエネルギー消費によって支えられた私たちの社会は、いま大きな曲がり角を迎えています。今回の事故は海外諸国にも大きな衝撃を与え、すでにドイツは脱・原発に向けて最初の一步を踏み出しました。日本政府もまた、国民の声の高まりに押され、浜岡原発の停止を命じましたが、それでも脱・原発の方向を明確に示すには至っていません。この期に及んでもなお私たちは、放射能汚染のリスクと引き替えに、これまでどおりエネルギーを大量に消費する生活を送るために、原発を受け入れつづけなければならないのでしょうか？

私たち龍谷大学教員の有志は、こうした問題を考えるために、また、とりわけ関西電力の「原発銀座」から遠くない滋賀県の状態を考えるために、緊急集会とシンポジウムを企画しました。ふるってご参加ください。

- 行き方：JR 瀬田駅（びわこ線）より「龍谷大学行き」バスにて10分。
- 住所：大津市瀬田大江町横谷1-5 龍谷大学瀬田学舎
- 事務局（問い合わせ先）：mahoro@gol.com（社会学部 村澤真保呂）
- ウェブサイト：<http://maholo.web.fc2.com>（随時更新）